

# 「とっどりの評判記」

第7話

なんでも

## 大正時代の最先端 鳥取高等農業学校



鳥取三洋電機(株)に現在も残る本校舎



旧鳥取高等農業学校 (本校舎と講堂)

**やまびこ博士**：今日は鳥取市内にある電機メーカーの工場に来てみました。

**こだまちゃん**：液晶みたいな、最先端の電機製品を作っている工場なのよね。あら？でも、入り口にはなんだかとっても古めかしい建物が建っているわね。

**やまびこ博士**：この建物は、大正10年、日本で3番目に開設された鳥取高等農業学校の校舎だったんだよ。今残っているのは、その時の建物の一部なんだ。

**こだまちゃん**：「こうとうのうぎょうがっこう」？

**やまびこ博士**：のちには「農林学校」となったこの学校は、今の鳥取大学農学部の前身だよ。大学は湖山に移り、その跡が電機工場の敷地に利用されているんだ。

**こだまちゃん**：この建物はその名残なのね。

**やまびこ博士**：この学校が鳥取に作られるまでには、地元の人たちの大変な努力があったんだよ。

**こだまちゃん**：ふうん。

**やまびこ博士**：江戸時代まで全国有数の実力をもっていた鳥取藩だけれど、明治以降、政府が一部の先進地域に絞って産業育成に努めるようになっていった。先進的な農業技術をもつことで巻き返しをはかる

ことができると考えた鳥取の人たちは、熱心に政府に働きかけたんだ。

**こだまちゃん**：それで、この学校ができたのね。

**やまびこ博士**：やっと認められた学校の設置だけれど、その条件は、費用の多くを地元側が負担しなければならないという厳しいものだった。ところが、当時、鳥取県にも鳥取市にも、そんなお金はなかったんだ。

**こだまちゃん**：じゃあ、どうやって学校を作ったの？

**やまびこ博士**：農業学校の設置を切実に願う人たちが、そのためにたくさんの寄付をして、ついに必要なお金が集まった。いわば住民自身のパワーで、この学校は作られたんだ。まさに、「わたしたちの学校」だったわけさ。校舎のほかにも、当時日本最大級の温室や実験農園、講堂・図書館などを備えた、当時最先端の学校だったんだよ。現在でも、その校舎の一部分が、所有している会社によって残されているんだ。

**こだまちゃん**：当時の鳥取市民の願いがこもった建物なのね。

【佐々木孝文(鳥取市歴史博物館学芸員)】